

## 全域計画振り返りの評価結果

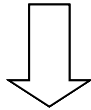
推進課題	目標(あるべき姿)
1 気軽に集まれる交流の場や機会を作ろう！	1-1気軽に参加できる多様な交流の場がたくさんあります 1-2区内の活動者の交流ができる場や機会をつくれます
2 みんなの参加で元気な暮らしを進めよう！	2-1地域ぐるみの健康づくり・いきがづくり活動や介護予防の取り組みが進んでいます 2-2区民の活動に対するバックアップ体制が整備されています
3 子どもや青少年の健やかな成長を地域で育もう！	3-1子どもや親を支える地域の体制がつくられています 3-2子ども・青少年の交流の場や機会がたくさんあります
4 隣近所からはじまる支えあいの人の輪を広げよう！	4-1地域の生活課題を解決する活動が広がり、関係団体の地域支援ネットワークができています 4-2行政の地域支援体制が整備されています
5 高齢者や障害者、外国籍市民等への理解を深めよう！	5-1高齢者や障害者への理解が進み、地域の支援が得られやすくなっています 5-2外国籍区民との交流やボランティア活動が広がっています。
6 地域を支え、人を支える活動の担い手を育てよう！	6-1ボランティア活動に参加しやすい仕組みがつくられています 6-2ボランティアの発掘・育成が進んでいます
7 福祉や保健の情報が集まり、届く仕組みを作ろう！	7-1情報提供が進み、情報が収集しやすくなっています 7-2様々な相談制度が整備されています 7-3個人情報適正に取り扱われています
8 バリアフリーのまちづくりをすすめよう！	8-1駅周辺・公共施設のバリアフリーが進んでいます。 8-2災害に強いまちづくりが進んでいます
9 福祉・保健の拠点づくりをすすめよう！	9-1新たな福祉保健拠点が整備されています 9-2身近な地域の福祉保健の拠点が整備されています

◎達成されつつある・・・5点

○近づいている・・・3点

×まだ道のりは遠い・・・1-3点

無記入・・・0点



順位	得点	推進課題
1	62	2-1地域ぐるみの健康づくり・いきがづくり活動や介護予防の取り組みが進んでいます
2	59	1-1気軽に参加できる多様な交流の場がたくさんあります
2	59	3-1子どもや親を支える地域の体制がつくられています
4	56	4-2行政の地域支援体制が整備されています
4	56	7-2様々な相談制度が整備されています
6	55	9-1新たな福祉保健拠点が整備されています
7	54	2-2区民の活動に対するバックアップ体制が整備されています
8	53	3-2子ども・青少年の交流の場や機会がたくさんあります
8	53	4-1地域の生活課題を解決する活動が広がり、関係団体の地域支援ネットワークができています
10	50	1-2区内の活動者の交流ができる場や機会をつくれます
11	46	7-1情報提供が進み、情報が収集しやすくなっています
11	46	8-2災害に強いまちづくりが進んでいます
13	45	8-1駅周辺・公共施設のバリアフリーが進んでいます。
14	44	6-1ボランティア活動に参加しやすい仕組みがつくられています
15	42	7-3個人情報適正に取り扱われています
16	40	6-2ボランティアの発掘・育成が進んでいます
17	37	5-2外国籍区民との交流やボランティア活動が広がっています。
18	35	5-1高齢者や障害者への理解が進み、地域の支援が得られやすくなっています
19	29	9-2身近な地域の福祉保健の拠点が整備されています

活動の促進  
活動の機

しくみづくり  
場の整備  
(ハード)

## 全域計画振り返りに対する委員からの意見

推進課題1 気軽に集まれる交流の場や機会を作ろう！	<b>1-1気軽に参加できる多様な交流の場がたくさんあります</b>
	身近な交流の場として ・子どもや青少年たちとの話し合いの場所を増やす ・イベント、仲間づくり、内外ゲーム遊び、独居者同士の交流
	お年寄りが気楽に立ち寄れる場所やお話し合いが出来る所ということから、上手に運営されていると思います。又その中でウォーキングとかカラオケとかも取り入れたり。
	サロン等開く為の条件(場等)が悪い地区への支援が必要 ・各地域にサロンが開設され地域のたまり場となりつつある。大変良い事例だと思う。ただし月1回の開催が多いですが、せめて月2回開く事を願う。 ・高齢者の見守りの場所としての講演会、イベントのチラシは事前配布が必要。予定を立てるには3ヶ月毎の情報提供は有難いが開催直前になると忘れてしまう。(特に高齢者)
	サロンは増えてきました。昔の井戸端や縁側のようにいつでも誰でもふらっと立ち寄れる「場」が常設で運営できるとさらに住民のよりどころになれると思います。
	サロン活動はすばらしい事業です。ここを基点として計画の基本理念の達成を目指したいものです。
	キッズデイが今年にはなくなりました(ボランティア連絡会も参加していました)
	どのような交流の場になっているのか自己評価を具体的に示してほしい。
	地域ごとに取り組みに差が出ている。35の地域サロンがどのように運営されているか分かれるとそれが、身近な場所でさらに開催されるきっかけになる。サロンに出てこない、来られない人を誘う仕組みにひと工夫が必要。担い手も限られることから、サロンのお客さんが時には担い手となれるような事例の紹介 ・交流の場、活動拠点づくりは重要です。本郷に第二自治会館と中央公園集会所ができただけで、諸活動が活発化しています。
	「瀬谷キッズデイ」の廃止は来場者が増え、区民に定着しているということもあり残念に思いますが新たな事業を展開する方向とのことで「キッズデイ」が活かされるよう期待したいと思います。
	地域サロンの展開は素晴らしいと思います。サロンの形式も高齢者だけではなく、子育て中の親や障害者などに対象者も広がりつつあることは大変良いことだと思います。
	サロン開設を計画したとき、区の助成支援事業は、背中をおされた感があった。
	<b>1-2区内の活動者の交流ができる場や機会をつくります</b>
	福祉保健に関する講演講座の開催について ・例(老人クラブ)、ことぶき大学、福祉大学講座、の設定を行っています。 ・一般向け講座なども如何でしょう。出前、保健衛生研修会、施設見学、ウォーキング等の実施
	担い手は運営の方が大変だと思いますが、感謝をしています。
	様々な連絡会が出来てもその関係者のみでとどまってしまう。その存在と中身を知らせる手立てが必要。
	福祉保健に限定せず「生活」という広い分野で区民が交流できるしかけを考えていきたいと思ます。
	サロン連絡会、ネット等の活動はあるものの、それらによる具体的な交流活動の状況が区民にぜんぜん伝わっていない。回数、内容ともに情報提供が少ない。
	活動が活発になっているが、こども、障害者、高齢者支援団体相互の交流、連携が課題。 ・サロンは各々いろいろ工夫がなされており、茶道教室(だれでもお茶を楽しめます)やカラオケ大会やお琴教室等催すたびにあらたな参加者が増加します。元気倶楽部のように体を動かすサロンと銘打ってゆっくりウォーク、手指の体操、ゲーム大会で楽しくって楽しくってと喜ばれています。 ・是非地域ケアプラザごとの連絡会で良いところをとりあっていただければと思います。
	サロンが増えたことで協議時間が確保しにくくなったのはうれしい反面の課題ですね。しかし連絡会等は個のサロンや団体が様々な問題を抱え込まないためにも絶対必要と思われるので情報や意見交換できる方法の検討と期待します。 ・ユースフォーラムに参加したことはないのですが、広報等を通じて知り、すばらしい取り組みだと思いました。 ・ボランティア活動などをテーマにして将来の担い手につなげることが出来たらと思いました。 ・キッズデイの廃止はやむをえないと思います。それぞれの地域で魅力的な事業が行われるよう期待いたします。

**2-1地域ぐるみの健康づくり・いきがづくり活動や介護予防の取り組みが進んでいます**

健康シニア講座の開催、水・緑の健康ウォークは継続して開催して頂く事が区民の意識の高揚につながると思います。

ウォーキングやラジオ体操のグループが増えてきました。関心の低い人を誘い出す取組みに工夫の余地があると思われます。

健康づくりの基本は人と多く交わっていることだと思います。日常の地域生活のなかであいさつを交わせる人が何人いるか、町を歩いていてすれちがった人に気軽にあいさつが出来るか、を考えてみたいです。

ボランティアに依存している状況しか伝わってこない。

・スポーツクラブでも行う健康づくりを、なぜ行政が主導して行うのか、そこを強化し支援していく。

・介護予防は介護保険で行う介護予防支援との違いやつながりを明確にする。あわせて地域包括支援センターのかかわりや連携を強くする。

・老人クラブの加入者減少傾向について自治会として加入者促進PRに取り組むのが良いと思います。

・介護予防PJ「元気塾」の地域リーダー育成は良い活動です。会社生活全体から地域生活主体にかわった人にもっと呼びかけたいです。

・とても良い取組みがされているのだと感じます。が、ヘルスメイトの担い手不足や介護予防については、例えばもっと若い人にもPRがあるとよいと思います。介護予防では高齢になる前の年代の人が通いやすい運動企画など(スポーツセンターでの安価な企画は良いですが、遠いと通いにくい等ある)がもっと普及すると早いうちから予防ができ効果が上がるかと思っています。

・ヘルスメイトも知らない人が多いのでは？例えば子どもが小さくてまだ専業主婦中の小学生母へ学校を通してチラシを配る、教員(PTA)と連携し懇談会でテーマにする、学校で講演するなど。

・友愛活動推進員は私もよく知りません。

高齢者が増えつつある状況の中、介護予防の必要性はますます大きくなっていくと思います。現在展開されている様々な活動が今後さらに広がることを期待しています。

**2-2区民の活動に対するバックアップ体制が整備されています**

中学生への食事に関する啓発は今後とも続けて下さい。さらには自分でも作れる簡単朝食メニューのコンテストなどいかがでしょうか。

区民の健康を実質的にバックアップしている各ボランティアグループ及びその活動を支援するのは当然としてこれらのグループの意見を取り入れていないこと、その独自の活動に対しての支援が少ないこと等、今後支援が必要。

地域に対してさまざまな役割をお願いしているが、そろそろトータルにコーディネートする時期にきているのではないか

ヘルスメイトの今後は「転換」とは何の意味か。保健活動推進員、サポーター会、元気塾、健康づくり教室等支援やバックアップに感謝しています。

地域への支援体制は良く出来ているように思います。

3 子どもや青少年の健やかな成長を地域で育もう！	<b>3-1子どもや親を支える地域の体制がつけられています</b>
	地域でもほんわかサロンやほっとスペースもがんばっていただいております。
	子育ての様々な支援も良いが、子育て中の親とその地域、向う三軒両隣の中で子どもが育っていく大切さをとらえてほしい。
	出産の経費が若い夫婦には大きな負担となっている。産後のサポート体制も市の制度では利用できない人は限られている。「子どもを生み育てる」ことを応援する施策が必要だと考えます。
	子育ては出生から義務教育終了ごろまでは戸外活動を含め地域住民全体が責任を分担して行うのがよろしいと思います。
	支援グループや関係団体がどのような組織で、どのように活動しているのかがわかりませんので、21年度の実施内容がどのような効果をあげたのかが解りません。
	・子育てサポートシステムの担い手不足が課題であり事務局を区社会福祉協議会からNPOなどの団体に移行することも一つの解決策。
	・瀬谷区は幼稚園が14園と多いほうだが、もっと幼稚園とのネットワークや子育て支援などで活用すべき
	子育て応援ネットでは情報交換が達成されつつありますが、当事者の育児不安軽減へはまだつながっていないとは思えません。より一層の支援者、当事者が抱える課題への取組みが必要です。幼い子連れ親は、自宅から近い場が行きやすいです。地域ケアプラザではもっともっと子育て企画を行い、職員の研修を期待します。様々な場で育児相談が出来ると助かるとは思いますが、ジプシー親もいるので共通の支援の手段があるとよいです。そのためには、子育て支援に関わる団体が連携し、常に勉強会を開くなど学習が必要だと思います。
	子どもに関する様々な事業が展開されており、子育てサポートの環境は整いつつあるように思います。障害のある子どもに関しては、障害理解や啓発の部分をもっと進めていかなければと感じています。
	子育て応援カレンダーは子育て中のお母さん達にとって大変支援になったと思います。
	<b>3-2子ども・青少年の交流の場や機会がたくさんあります</b>
	放課後はまっこスクール、放課後学童保育所、共順調と思われます。
	親子の交流の場は増えているが、本郷中央公園のログハウスのような施設が区内にあと2~3ヶ所あれば歩いて行くことができる。周囲が用意した交流の場だけでなく、利用する者同志で自然発生的に生まれる受け身でない交流が長続きする。
	開放による遊び場等の提供等は良いことですが、その恩恵を受けられる状況が確立されているとはいえない。
学齢期の子どもたちへの支援は学校以外では不足しがちである。不登校、非行、引きこもりなど様々な問題が生じていても支援の仕組みが整っていない。すくなくとも300人参加のフォーラムで終わりではない。青少年指導員との連携でもっとできることがあるのではないか。	
各地区で、いきいき瀬谷っ子事業(三世代交流)の取組促進をはかるよう考えるべきだと思います。	
キッズクラブの安定した運営のための支援は重要だと思います。また、子どものころから喫煙、薬物など健康に関する啓発は大切だと思います。思春期には妊娠に関する情報提供も必要ではないかと思ひます。	

**4-1地域の生活課題を解決する活動が広がり、関係団体の地域支援ネットワークができています**

三ツ境区民防犯ステーションが廃止された事は誠に残念です。防犯パトロールは積極的にやっているといます。配食サービスも喜ばれていると思います。

「防災知恵袋」と「見守り合い」はそろそろ統合する方向ではっきり提示すべき時期に来ている。

防犯ステーションに常駐する人員の確保について自治会の人に加えてNPOワンデーポートからも派遣していただくことを提案します。

配食ネットワークは充実させたいと思います。実質的な見守り、ネットワークですものね。

支援ネットワークや関係団体がどのような活動をしているのかわかりませんので、それらの団体へ交付した助成金の使用状況、その効果等がよく解りません。

認知症高齢者は、今後ますます増加するが、徘徊への対応強化が求められる。認知症高齢者はいかいネットワークは地域(自治会、町内会など)との関わりの中でもう一度再構築できないか。

「気づきのキャッチ、見守りのリレー事業」の取組の成果が少しずつ上がっていると思われます。今後一層の努力を！

要援護者訪問不同意者が1801名(2108名)おり、同意者が4%上まったとはいえ、災害時に本当に援護が必要な人の把握を保健師さんの家庭訪問等でキチンと把握し、別途災害時の対策をとる必要があるのではないか。

虐待防止には専門家だけでなく、最も発見しやすい一般市民への啓発が効果的と考えます。「通告」への啓発でなく虐待は特別な家庭にだけ起こるのではなくどこでも起こりうること、近隣の温かい目や言葉かけだけでも救われること等一般市民へ知ってもらうことが大事だと思います。

会議中も意見は出ていますが、高齢者の見守り体制が将来は障害者、被虐待児童なども含めていくようになると良いと思います。また、児童虐待防止ネットワークを始めとした様々なネットワーク事業が開発されていますが、ネットワークと地域住民を結ぶ仕組みを整え、身近なところでの問題解決が図られるようになると良いと思います。

**4-2行政の地域支援体制が整備されています**

地域によっては特定の人がパトロールでなく自治会員主体で出てきていただいている所もあります。

地区支援チームの充実嬉しく誇らしいのですが、地域住民側が頼りすぎたり、さらには区役所の職員がやれば良いなど考え違いをしないように自戒したいと思います。

すれちがったら「こんにちは」の町づくりをしましょう。

市民の声を直接受ける「電話相談窓口」等の具体的な支援体制などはどうでしょうか。

地域の取組みのばらつきが大きくなることが予想される。その場合の支援の仕方に工夫が必要である。

「真の地区支援」とは、という事に付いて、地区の考えというものを聞いて欲しい。

休日だろうが、夜間だろうが、支援チームが出席して御支援いただき感謝、感謝。

防犯パトロールは小学校PTAでも行っています。(子どもの安全が中心目的ですが)年間数回やっているの協働したらどうでしょう。

地域支援チームによる地区別計画の取り組みはとても良いと思います。今後も支援を継続して頂きたいと思います。

支援チームの活動は年々充実してきました。自分のまち、自分の区の住みやすさを追求するという姿勢になってきました。

<b>5 高齢者や障害者、 外国籍市民等への 理解を深めよう！</b>	<b>5-1高齢者や障害者への理解が進み、地域の支援が得られやすくなっています</b>
	キャラバンメイトの認知症普及啓発をもっと手軽に出来る瀬谷独自のシステムが必要
	成年後見について 4親等以内の身寄りがいても当人の認知症について認識が甘いと申立人の署名押印をしてくれない。そのためにも区長申立てを急いでほしい。危険がせまっている。
	障害者プラン(第2期)と内容が重なる部分もあります。多面的、重層的な支援体制が構築されるようにしたいです。
	支援サポーターの育成や活動への助成金交付を中心、区が中心となって広報活動などを推し進めないと理解が得られないのでは。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害や認知症に対する理解は、必ずしも十分浸透していると言えない状況である。区社会福祉協議会や地域ケアプラザの地域交流部門など様々な場面で活用できる。</li> <li>・サービス提供機関がもっと地域に発信するよう誘導することもひとつ。たとえば区内には特養は6つ、老人保健施設4、グループホーム28ある。障害者施設も作業所を含めて地域発信が課題。</li> </ul>
	成年後見制度を例えば要介護5の人とかにもっと周知させてはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者への理解はまだまだ足りないと思います。21年度阿久和北部と瀬谷第二地区で行われた障害をテーマとした講座をぜひ他地区でも開催してほしいです。障害者を見守り、受け入れる地域であるためにより一層の啓発が必要だと感じています。</li> <li>・障害児者の余暇活動は、特定の動ける親(グループの自主運営をすることができる、制度を知って自ら申請出来るなど)がいれば充実するという活動だけではなく、本人が参加しやすい気軽に集まれる場所があると良いと思います。高齢者や子育てのサロンがあるように、就労している障害者が月に1度くらい集まること出来るようなサロンがあると良いと思います。</li> </ul>
	<b>5-2外国籍区民との交流やボランティア活動が広がっています。</b>
	外国籍の方や外国人を親にもつ子どもに対しヒアリングなどの実態調査をしてはいかがでしょうか。ニーズが多くないのかニーズを伝える機会がないのかニーズの伝え方を習熟していないのか、判然としていません。
	転換するとなっているが区の中に支援する部署を作ることで区内での外国籍区民の支援活動は可能では無いか。
	人口やニーズが多くないとの回答であるが、多数者だけでなく少数でも支援すべき課題があれば、支援するのが公的役割である。行政に強い要望が来ないからといってニーズがないとするのは安易な発想。
	外国人は普通にいます。(気づかないだけ。自らは表に出ないから)人数が少なくても、外国籍の人がいたらすぐにつなげる場があることと、一般市民や学校教員(子どもの親で気づく教員もいる?)がその場を知っていることが必要です。
	国際交流ボランティア団体の活動について良く知らないので今後注目していきたいです。

6 地域を支え、人を支える活動の担い手を育てよう！	<b>6-1ボランティア活動に参加しやすい仕組みがつくられています</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来のボランティア精神も合わせて特に子どもたちに伝えることが必要。</li> <li>・地域では見守り合いシステムづくりが進められている。「ボランティアのつどい」等に参加している人達が自分の住んでいる地域での活動、又はその活動を地域につなげるようになる事がよい</li> </ul>
	<p>学生・生徒が学業の一環としてボランティア活動をするようになっているのでしょうか。もしなっていないようでしたら是非行っていただきたいと思います。</p>
	<p>ボランティア活動は参加しやすい仕組みは誰のためなのか。ボランティアになる人のためか区民のためかよくわからない。必要に応じてボランティアを集める体制は整えられないのか。</p>
	<p>ボランティアに関心はあるが、今一步前に進めない人たちへの情報発信、ここに工夫の余地はないか。</p>
	<p>この欄でも「元気塾」を位置づけてはどうでしょうか。</p>
	<p>ボランティアセンターの働きに期待しています。</p>
	<b>6-2ボランティアの発掘・育成が進んでいます</b>
	<p>ボランティア講座はとても良いと思います。歴史あるボラ団体は敷居が高く入りにくいので類似講座をどんどん組んで卒業年度毎にグループ化すると思います。何でもやるボラさんもありがたいけれど、テーマを絞って「これだけやるボラ」に特化する方が楽しく続けられます。奉仕の精神だけでなく、自分達が楽しく続けられるボラが魅力的です。</p>
	<p>増加、増員が目的になっている様に思われる。もう少し支援活動の方向性等を示すべき。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンやさまざまな地域活動が行われているが、担い手の固定化や不足が課題となっている。</li> <li>・区社会福祉協議会は本来業務のボランティア育成に再度力を注ぐべき。自らがボランティア育成を行うとともに、例えば他都市などの成功事例を地域に紹介するなどにより地域自身が担い手を探し育成する方法もあるのではないか。</li> </ul>
	<p>中学生のボランティア活動体験は少し進んでいますが、高校生についても学校と連携を図り、積極的に行うべきだ。</p>
	<p>私の関係するボラでは、人材が不足していると感じます。中学生はよい企画と思うが、今の中学生はあまりに忙しくボラも時間が取れないことが多いと思う。若い専業主婦が減り(就業者が多い)、経済的にも苦しい家庭が増え、人材の世代が高齢化している気がします。ボラ活動の啓発と共に社会問題でもあり、解決は難しいと感じます。</p>
	<p>中学生のボランティアカードなどきっかけづくりに今後も取り組んで頂きたいと思います。</p>

**7-1情報提供が進み、情報が収集しやすくなっています**

情報と取ろうと思う人には様々な手段が用意されました。しかし本当に必要な人にどのように届けるのか、課題です。

かなり近づいていると思います。タウン紙、区広報、回覧板やサイトも多いに利用してもらいましょう。

情報収集先が限定されているのはどうなのでしょう。

利用者アンケートをとるなどにより、ニーズにあったやり方を模索すべき

地域における情報提供者となりうる、地区社協や連合や各自治会・町内会会長にできるだけ情報提供を行うべきだ。

薬局に行くたびに拝見しています。福祉保健行政が身近に感じられます。薬局、理美容院、郵便局のほかにも銀行、食堂、レストラン、病院、診療所等々拡大ができるし組織化もできます。施設情報、パンフレットだけでは古聞(フルブ)になる恐れあり。毎月のイベント情報チラシがよいので、それがないとすたれる恐れあり。ホームページなどを見れる老人は1割もいません。

インターネットを活用した情報提供は今後、利用者が増えると思うので充実して欲しいと思います。一方ITでの情報入手が苦手だという方々のために、また、コミュニケーションの活性化のためにもふくし情報提供店を増やしていただきたいと思います。また、すでに取り組まれているかもしれませんが、各地域で活発に行われているサロン活動等が情報の発信場所となるような仕組みがあると良いと思います。

**7-2様々な相談制度が整備されています**

身近な場所で相談できるのはとてもありがたいことです。相談を受けた人の力量のみで回答するのではなく平準化したり、類似相談を区内でまとめたり後方支援機関へつなげたりするためのセンサーとしての窓口であってほしいと思います。

支援者のスキルアップも必要かも知れませんが、地域ケアプラザに行けない人をどうするか「電話窓口」等を考えるなど

相談機関は増えてきているが、相互の連携、ネットワーク構築が課題である。

障害児を育てる上でのちょっとした生活の工夫などを親が相談できる場所(人)がないと感じています。身近な場所で相談が出来るようになると良いと思います。

**7-3個人情報 that 適正に取り扱われています**

個人情報を守ろうとするあまり、必要な支援にもどかしさを感じます。

身近にはわかりません

定期的に各団体等での個人情報の取扱状況をチェックすることが必要。又漏洩があった場合の処理対策処分等についての周知徹底を。

個人情報保護への配慮のあまり、本当に必要な情報が地域のなかで共有されていない。地域の中では住所や名前、電話番号などの名簿が共有されてもいいのではないかと。

言葉だけで、活動のブレーキになっています。

地道なねばり強い活動が最も求められる分野と思われます。地縁団体への取組の強化が急務と考えます。

適正に取り扱われるよう今後も間違いのないよう進めて頂きたいと思います。



**8-1 駅周辺・公共施設のバリアフリーが進んでいます。**

駅周辺のバリアフリー化も良いが、商店の品物陳列方法等指導が必要。

瀬谷駅北口では駐輪施設はないのに監視され困っていました。今ではマルエツ前やスマイルロードに駐輪架が設置され安心して堂々と止めることができるようになりました。三ツ境駅南側の歩道が狭くこれから期待します。

三ツ境駅北口バスターミナルへの降りるエスカレーター・エレベーター設置を希望する声が多いです。不自由な足でバスターミナルへ行くべく、道路を横断している姿は見たくないです。

なんでもバリアフリーにすることが良いとは思えない。本当に必要なところ、例えば健常者でも歩きにくい斜めになっている歩道を広くする等の整備を。

瀬谷区全体でみると、車いすで町を歩ける状況からは遠い。

「バリアフリー構想」を見たことがないのですが区役所方面のみならず三ツ境駅周辺は歩道が極端に狭かったり自転車専用路がなく日々危険を感じます。ガードレールが途切れなく設置してある所を見かけるが、子どもや女性にとって逃げ場がなく、危険に思います。防犯でも視野に入れて環境を整える必要があると思います。

三ツ境駅周辺地区のバリアフリー基本構想により、三ツ境駅の南側の厚木街道沿いの歩道の段差が解消されましたが、自転車が走りやすくなったため、歩行者にとって危険なことがあります。点字ブロックの上の駐輪も多いです。歩道は自転車を押して歩く、点字ブロックの上に駐輪しないなど、放置自転車防止と共に自転車のマナーの向上を目指すことも必要だと感じます。

**8-2 災害に強いまちづくりが進んでいます**

まち歩き、支え合いカード作りまで理解をしていない自治会もあります。地域で一つ一つ説明しながら呼びかけて行かなくてはと思います。

見守り体制づくりとの関係を整理する必要があります。

要援護者は災害時だけでなく日常生活も困難になってきています。民生委員さんにばかり負担をおかけせず簡単な日常生活支援は近隣でチームが組めるといいと思います。

配布されているのかが解らない状況。回覧板などいろいろな地区によって違うのか、一般に広まっていない。

取組が遅れている自治会の底上げが課題

要援護者(同意者)について単年度の同意率が16.3%とあるが、これは次の欄の同意率54.0%と混同される。同意率向上とした方がよい(あるいは不同意者の減少率)

・コミュニケーションボードの配布についての記載がありますが、コミュニケーションボードは元々知的障害者の理解、啓発を目的としてセイフティネット横浜が作成したものです。外国人や聴覚障害の方の利用も多いと思いますが、知的障害者や自閉症という言葉も今後の説明に入れて頂ければと思います。コミュニケーションボードの地域防災拠点への配布と同時に、セイフティネット横浜では、知的障害や自閉症のある人の理解啓発のため、災害拠点で配慮してほしいことやコミュニケーションボードの使い方を出前講座という形で展開しています。瀬谷区でも瀬谷高校、災害ボランティアネットワーク等で出前講座を見て頂きました。今後地域防災拠点ごとに講座を開いて頂きたいです。

・災害時要援護者訪問が区内全域で展開していることはとても素晴らしいと思います。今後は18歳以下の障害児にも広げて頂きたいと思います。

9 福祉・保健の拠点づくりをすすめるよう！	<b>9-1新たな福祉保健拠点が整備されています</b>
	福祉の総合施設として、ここに来れば用が足りるシステムを…。〈総合窓口の設置〉
	複合館として10+10=100になるようなダイナミックな相互連携を期待しています。前例とか分野の壁を超えて区内に生きている人々をまきこみながら地域貢献を進める核となってください。
	各施設とも利用する人のニーズを充実させる運営内容にしてほしいです。運営団体が違う施設もあると思いますが6施設全体でのニーズ、把握も必要かと思います。
	拠点を作ってそれをどのように活用させていくのか意思疎通が大切
	旧アレルギーセンター跡地に6つの施設が開所する。相互の交流、連携が課題である。
	水・緑の健康ウオークでもせやまるふれあい館経由ウオークを実施して、心待ちにしています
	誰もが利用しやすい拠点となるよう可能な整備に力を入れて欲しいです。
	・せやまる・ふれあい館のそれぞれの施設の機能の充実することを願います。また、それぞれの施設が連携することで新たな活動が生まれることを期待します。場所が不便なので、シャトルバスを検討して頂きたいです。あるいは、区内の施設を巡回するコミュニティバスが整備されるなど移動支援が充実すると良いと思います。
	・障害者自立支援協議会でケースワークに関する事業所のスキルがアップし、また、関係機関の連携が進められていることは評価できると思います。障害者団体との連携はまだあまり進んでいないように感じていますのでより一層の推進をお願いします。
	・地域ケアプラザが障害者の身近な一次相談場所としての機能を充実してほしい。
	<b>9-2身近な地域の福祉保健の拠点が整備されています</b>
	小規模多機能型居宅介護は在宅療養、在宅介護を継続したい家族にや本人の強い見方です。これが増えれば施設入所を選ばなくても住み慣れた家で暮らし続けられます。
	区民の意見、希望等についての対応について十分に検討することが必要
日常生活圏域ごとの整備が目標であるなら、量的拡大を急ぐべきである。	
小規模多機能型居宅介護事業所の整備と、今後増える事が予想される認知症の方々への行政・地域・団体・施設等の連携、協力、役割分担を検討すべきだと思われます。	
コミスクは区内に今何カ所あるのですか？	
小規模多機能型事業所と他の事業を組み合わせ、高齢者だけではなく施設展開をしている事業所がある。他の事業所でも同じような取り組みがほしい。	
<b>その他</b>	
失われている地域のコミュニティ意識を復活させ第一次計画の基本理念である「みんなで作るみんなのしあわせ」を実現するための計画を第二次ではどうしても作るのだという観点を失わないようにしたいと思います。	